第１回　阿智村学校のあり方検討委員会　小委員会　会議録

○ 会議日時　令和６年５月 24 日（金）午後４時

○ 会議場所　阿智村中央公民館　会議室

○ 出 席 者　委員長：岡庭　潤　　副委員長：伏木　久始　代田　昭久
委　員：増田亜由美　　上條　雪絵　　白澤　裕次
逸見　貴子　　佐々木哲志
【教育委員会　事務局】
教育長：黒柳　紀春　教育次長：川上　悟　学校教育係：村田　浩一
学校教育専門主事：松澤　徹（全体進行）　川上　清宏　佐々木　豊
英語教育専門員：両角　明浩
（欠席　なし）

１　開会の言葉　（松澤専門主事）

２　教育長挨拶

４月 16 日の第１回学校のあり方検討委員会ご苦労さまでした。現在、その時のビデオが村のケーブル・テレビにおいて今週いっぱい朝昼晩と一日３回放送されています。また、その時の会議録はすでに教育委員会のホームページに掲載されておりますのでご覧いただければと存じます。

教育委員会では４月には村内６小中学校ＰＴＡ総会において、５月には８自治会で学校のあり方検討委員会の説明会を開催して、村の皆さんへの周知とご理解に努めてまいりました。

さて、本日は第１回目の小委員会です。選任された委員の皆さんにはご苦労さまですが、何卒よろしくお願いいたします。

教育委員会では、この小委員会を本委員会でどのような内容を議題として扱っていくのか予め打ち合わせ、調整したり方向性を検討したりする会議と位置付けております。副委員長の伏木、代田両委員には小委員会の協議に参考意見や話題を提供していただき、それらを含めて小委員会として議題を本委員会に諮っていくという流れをとってまいります。

会議の回数も限られていますので、毎回の会議で検討した内容がどこまでまとまったのか、進んだのかを皆さんで確認していただき、その積み重ねで３月の中間まとめに結び着けていただきたいと考えております。委員の皆さんのご理解とご協力をお願いいたします。

なお、私ども教育委員会事務局は原則的には議論に加わらず、委員会から質問や説明を求められた場合や会議の進行や日程等に関わる事務的な内容について発言させていただく立場でおりますのでご承知ください。

それでは、本日の会議が有意義なものとなりますようご期待申し上げ、教育委員会からの挨拶とさせていただきます。

3　委員長挨拶

第 1 回のあり方討委員会、高橋先生の講演と 2 回勉強する場を設けましが、今日、小委員会ということで皆さんには、そういったものを踏まえた中でのご意見をいただければと思いますので、よろしくお願いします。この小委員会ですけれども、インターナルの会議ということで皆さんにはしっかりとご意見いただいて、今後の方向性をつけていただければと思います。よろしくお願いします。

4　協議

・進行：委員長

自己紹介をしていただきますが、初の小委員会ですので、前回の伏木委員、代田委員、高橋先生の話を聞いた感想も交えながら、お考えも紹介していただければと思います。

(1) 自己紹介

①A委員

前回お話を伺って、教育の分野に関しては特に深い知識もあるわけでもなく、子育ても満足にしてきた人間ではありませんが、(副委員長の)2 人のお話を聞いて、教育分野は奥が深いなと改めて実感をしました。そういう委員として今後やっていけるのか不安を覚えたところがまず 1 点です。

第 1 回の委員会の後で、この 1 ヶ月、自分なりに様々な教育のこととか、いろいろな地域の方たち、 仕事先でたまたま会った教育関係者諸々と話をさせていただくように極力努めました。私が思った結論っていうのは、このあり方検討委員会が何を最終的に目指すのかっていうことを僕の中でもはっきりさせなければいけないということです。

私は民間の人間で、ビジネスを基にやっているので、 基本的には合理的に物事を進めたいし、ゴールを決めてそのゴールに向かってプロセスを作っていきたいっていうタイプの人間なのです。今日、改めて自己紹介の中で言えば、最終的には、一昨年度出生した 26 人の子どもさんが 5 年後に、昨年度出生した 19 名の子どもさんが 6 年後に小学校へ入学するという話を聞くと、単純に言えば、学校の統廃合だとか小中一貫校っていうのは避けて通れない大

命題だと感じます。

では、今の財政の状況だとか今後の人口減少のことを考えた上で、学校が5 校存続するっていうのはもうあまりにもナンセンスであるし、これをどういった形にするかというと、児童数から考えて、まず、学校の統廃合っていうのはもう全く避けて通れない問題であると思います。教育の(あり方の)部分や、これからの教育をどう進めるかということについて、僕は僕なりに結論を出していくと、小中一貫校で学校を 1 つにする、その上でどんな教育がいいのか、その上でどんなやり方がいいのかということを民間レベルで考えると、その方向に行かざるを得ないのが自分の考え方になりました。それが、この委員会の目指す方向に合っているのかどうかが、自分の中では何とも分からないのです。こういう状況の市町村は、もう長野県も含めて全国にたくさんあって、どこもかしこもこの議論を進めていて、統廃合は避けて通れないというところからスタートしているのです。そういう方向ではないと言うことでしたらその方向で考えていくしかありません。

だから、統廃合は前提であって、そこで学校的に存続だとか教育を議論するのだったらその方向にならなければいけないというように、いろんな方たちと話を聞く中で、今後の進め方っていうのを改めて確認したいなと思っています。これは合ってなければ私はここの委員としてやる必要もないので、そこだけ合えば、今後のその進め方の議論の中でも、私なりで考えたことが提案できるのではないかと思っています。

②Ｂ委員

立場的には、医療関係者ということで参加しているのですが、私は教育に携わることがあまりないので、今回のこの大きなテーマについて、自分の中で消化不良な状態なので、どの程度の提案ができるかは分からないです。勉強させてもらいながら 提案をさせていただきたいと思っております。

商工業者、また会地支会長ということもありまして、個人としてアンチストラップで職場のその説明会とか参加させてもらったりとか、毎年、阿智中の職場体験の方を受け入れさせてもらって、こう仕事するんだよっていうこと を説明、体験してもらったりしています。

子どもたちの人数が少なくなってきたこと、日本中そうですが、阿智村の人口をどうやって増やしたらいいのか、働く場所があれば増えていくのではないかと考えていました。そして、より良い教育が受けられるのであれば、そんなところはぜひうちの子どもも 勉強させたいっていうことで、それこそ若い世代が入ってきてくれるのではないかと考えています。まだ、高橋先生のお話は聞けなかったのですが、これから拝見させてもらって勉強していきたいと思っています。

③Ｃ委員

小学校も小規模校も初めてですが、小学校だからなのか、小規模校だからなのか分かりませんが、驚くほど豊かな体験に満ち溢れていると感じています。昨日、田んぼの様子を見に行って来た時に、子どもはカナヘビとかトカゲとかいろんなものを捕まえてきました。それを飼って、何を食べるのか、などを観察しています。言ってみれば、私はこれが探求的な学びだと思うのです。地域の方でもいろいろな方が入ってくださって、助けていただいています。智里東協育の会という会にお世話になっていますが、高齢化が進んで協力してくださる方々の人数が減ってきているという課題もあるのではないかと思います。

小規模校の弱みとしても、その人数が少ないので発言する順番も決まっているぐらいの人間関係になっているという点を何とかしたいということで、清内路小学校さんに誘われて、一緒に行事を行ったりとか、授業をオンラインで繋いでやったりっていうこともチャレンジしていきたいです。

それから、支援してくださる地域の方がだんだん減っているので活動を少し狭める一方で、例えば、地域にある阿智高校の生徒さんにボランティアで学習支援をしてもらえたら、支援していただくことを広げることになるのかなと勝手に思っています。

小規模校の良さがいっぱいあるので、良さを活かした教育があれば人が来るというお話とか、人口を増やすにはどうしたらよいかというお話もありました。学校のあり方と合わせて、皆がこれから阿智村をどうしていくのが良いかというところもとても大事になってくると思います。

この頃、地域の方が、「学校がなくなるってことは地域が死ぬってことなんだ」とお話に来られました。そういう不安をお持ちの方がいらっしゃるというところもケアをしていく必要があるのではないかと思いました。

④Ｄ委員

先日の講演は聞くことができなかったものですから、ピントはずれなことを発言してしまうかもしれませんので、ご容赦いただければと思います。

自分の子どもたちですが、一人は中学校に通い、もう１人が高校生で、ここ阿智でお世話になってきました。日頃、私が気になっているのが、小学校から中学校に行くと通えなくなってしまう友達がいる、ということです。よく聞いてみると、その子だけじゃなくて、自分もたまたま接してたことがある子たちもいて、余計身近に感じながら、何が原因だろうかとか、何か私たちにしてあげれることがあるだろうかとか、親御さんの、お母さんの気持ちとかを考えてしまうと、みなさんに考えていただきたいなっていうことを思って過ごしていました。

原因はやはり時代が影響している、と感じています。なんとかしていかないと、子どもたちがあまりにも切ないと感じています。

高校に行っても結局、通えないで毎日家にいる。例えば通信制の学校だとしても、 ほとんど家にいるのですが、もうさすがに高校生になってきていると親もずっと見るわけいかないですね。私から見ると、一部の方にはなると思いますが、こういう方たちの一部から、自信がない、怖いとか、接し方がわからないとかっていうところの不安感がある。 そこで、よっぽど年の離れた私たちのような者や社会と関わっていくことが、安心して普通に接していくことができて、自信を持ってしっかり馴染んでいくっていうことができるんじゃないかと思っております。

一方で、今、名古屋大学のインターンシップを丁寧にやっていて、毎年、新規採用を考えています。年々、その学生さんたちの社会、仕事、生き方に対する考え方にちょっと違和感を、私なりに感じることがあって、その違和感は、多分、幼少時、幼少期からの子育て環境の中にあると思うのです。

私の仕事は、勤めてくれる方々がいないと仕事になっていかないので、 未来に希望を持って勤めてくれる方たちに出会っていくかです。出会う母数を増やしていくためにも、どうしてもこの幼少期、あるいは、義務教育期間に小規模単位で活動して、もちろんそれに伴うデメリットもありますけれども、特徴ある 取り組み、メッセージ、そういうことをしっかりと考えて出していく必要があると思います。

こう考えると、学校のあり方を考えるというよりは村のあり方を考えるということになると思います。そのためにどう動いて魅力か進めていくのか、もっと人間性豊かにそれでも生きていけるのかっていうようなところを、実際はどういう分野で強いのかという視点から考える必要があると思います。

観光という面では、インターナショナルスクールを誘致するとか、海外への留学や研修みたいなものを村が支援しながら毎年行っているだとか、という取り組みが見えてくると、ここで生活していく方も子どもたちも安心して未来が見えてくるのではないか。そんなことができたらいいなと思っています。今回のお話いただいた時に 学校自体の課題や問題までは正直、深く分からないので、期待しながらいい方向を見ていかれたら嬉しいなと思っています。

④Ｅ委員

色々と先生方のお話を聞いて、やっぱり自分が子どもの時の教育と今の子どもたちが違うなっていうのはよく分かりました。計算の仕方、答えは同じなのに、計算の仕方が昔と違っていて、基準も漢字は同じなのに、「一角目がこれ」というのは、子どもの時の私のやり方とは変わってきている。 私が何

か教えようとしても、「それ違うよ、先生にこう教わったからこういうやり方をするのだから、お母さん言っていることが違う」と言われてしまいます。自分が子どもの教育にどう携わっていくのか、なかなか手を出しづらいなとも思っています。

今の子どもたちの教育は、自分たちで考えて自分たちで色々と学んでいくやり方になっています。昔は、私もそうだけれど、先生から一律に、「こうこういう風にしなさい、こういう風なんだ」とずっと教わってきたので、今の教育は自由だなと思います。

でも、昨日、第一小学校の学校運営協議会があって参観をしたのですが、子どもたちはとても元気で、私たちが子どもの頃なら怒られていたな、というくらい私語というか、授業に関係ある話を自分から自発的にすごく意見を言っていました。私たちなら黙って手を挙げて、どうやって喋るか考えていたのですが、先生は、「これはどうなの。そうなの」など、いろいろな子がいろいろなところから話をしていったりしている姿を見て、すごく賑やかだけど、子どもたちはただ喋っているのではなく、その授業について一生懸命考えて発言していて、それを先生がちゃんと考えて授業をしてくれているのだと思いました。先生は、本当に努力されているということをこの授業を見て感じました。先生方の講演でお聞きしたものは、本当にいいと思います。

学力についても、現在、阿智村教育委員会では検定の補助や対策講座、若駒、放課後学習など、学びに対して積極的に支援をしてくださっています。私の中では、興味のある子たちは本当にどんどんやっていけると思います。賑やかにいろいろな意見を自分で発言して、自分で探求していく子どももいれば、先生の話を静かな状況で聞いて勉強が進む子どもたちには、逆に、うるさくて勉強できないという話もあるので、その子たちだって別におかしいわけではないと思います。多様性のある現状なので、そういうバランスを取ってやっていけるのかが、私の中で課題だなと思っています。

これから小学校のあり方、教育のあり方も考えていく中で、A委員が言われる方向性も大切だと思います。また、このあり方検討委員会と並行して、保護者とか子どもだとか地域の方に教育委員会事務局の方たちも説明会をしてくださっていて、それぞれ聞いた人たちが、自分たちの意見も多分あると思うので、私たちがその意見を聞いて、この検討委員会でやっていくものと少し違う意見もあるとは思いますが、その意見をもっと組み入れていって、子どもたちが使いやすい学校だとか、素晴らしい阿智村のためにどうやっていけるかということを、もうちょっと柔軟に考えていけるようにしていきたいと思います。

住民や保護者、子どもたちの声も聞きながら、その意見も一緒に入れてやっていけるといいなとすごく思うので、聞かないということはもちろんない

と思っていますが、やはり反発も出てくると思うので、そういう意見をどうやって少しでも寄り添って取り入れて、満足していただいて、全部は無理かもしれませんが、ある程度納得していく妥協点もみんなで考えられればいいと思います。

阿智村は自然もすごく豊かで、地域活動や課外授業も多く、 観光や温泉も素晴らしいと思います。花桃も、星空も色々子どもたちが体験させてもらえることが多くあります。うちの子どもも、この前、星空を初めて見たり、花桃も見たりして、「すごく良かった、いいところなんだね」と言っていました。だから、阿智村はすごくいい村だと思っています。子どもたちが、これから村を好きでいてくれれば、またどこか行っても、こういう自然だったら、村の今の記憶っていうのをもとに帰ってくるのだと思います。村の魅力を最大限に生かせるよう、このまま引き続いてやっていただけたら嬉しいなと思っています。

⑤Ｂ委員

学校薬剤師として、2 月か 3 月に、5 年生はタバコの害について、6 年生は薬物乱用について学習教室を毎年繰り返してやっています。学年によって子どもたちや担当の先生によっても、だいぶ雰囲気が違うと感じています。

また、昔と比べると落ち着いて話が聞けない、ということが増えてきたのかなという気がします。 前は、10 人中 2、3 人だったのですが、今は５人中、2、3 人くらいになってしまっていると思います。個性が強いと自分は見ていますが、 学校の先生は、それぞれの子どもに対して教え方や接し方を変えていて、なかなか難しいなと思っています。学校の先生にとっては、普通なことなのかもしれません。

人口減少のこともありますが、せっかく芽生えた有能な子どもたちがどんどん外へ出て行ってしまうという課題です。この点を村としてどうやっていくのかを、再考してもらった方がいいと思っています。

⑥Ａ委員

最初に言った方向性のところですが、今お話を聞いて、本当におっしゃる通りだなっていう風にも思うのです。

ただ、例えば、村の財政とか収支を見ると、このような人口減少の中で、その人口減少をどうするかという問題はなくなるのですが、現実に 26 人とか 19 人という現実的な数字が迫っている中で、学校の維持がものすごく重要だと思うのです。

ただ、5 校ある現状の学校数を維持するのは、財政上もいろいろな局面においてもなかなかハードルが高いと思います。小規模校ももちろん大事だし、

いろいろな教育方法ももちろん大事ですが、私は会社員なのでどうしても財政上の収支と収益とローコストということを考えると、維持することは難しいと思うのです。

「これを維持するためにどうするか」という議論をするのか、「合理化するのか」の結論から出さなくてはいけない問題だと思います。 先ほどおっしゃられた、「どういう教育をしてこの地域に人が住むようにするとか、教育を受けたいという地域にするか」というのを、ある意味、結論を 2 つ、両方突き詰めながら考えて、最後どう合致できるかっていうような考え方も必要だと思いました。

また、この委員会の 2 年間という任期に非常に疑問を持っています。2 年間議論して、それから財政問題や今後の学校の維持存続そのものに関して検討をスタートして果たして間に合うのかというのは率直な意見です。少なくとも 5 年後には 26 人の児童が小学校に入学する時が来る、それ以降どんどんどんどん減っていくようになる。

一方、村の政策として人口を増やすとか 少子化の対策を打つということは、国レベルでやらなければいけないし、やっていかなければいけないのですが現実的ではないと思うのです。ある意味、直近の問題で解決できるかと言ったら、そうではないかもしれません。

この 2 年間の議論の後に答申を出し、それを受けて方法を決めて、学校をや教育をどうするかを考えると、議論に 2 年間かけてしまって間に合うのかというのが率直な私の思いです。

⑦委員長

教育長さん、教育委員会が問いかけている教育的なスピード感と継続感についてはいかがしょうか。

⑧教育長

6 年後に 19 人の子どもたちが小学校に入学してくるということですので、どういう形であれ、2 年間で答申を出していただいて、苦しいですけど残り 4 年間かけて対応しなければならないと思っています。

教育委員会として議会で答弁しているのは、少なくとも現状のままはあり得ない。つまり、色々話し合ったけれども、最終的に現状のままで行きましょうという結論はないだろうと思っております。

⑨委員長

それでは次に。全村フォーラムについてお願いします

(2) 阿智村の教育を考える全村フォーラムについて

①事務局提案（松澤専門主事）

6 月 29 日の土曜日、2 時から 4 時まで、中央公民館 1 階のホールを会場として行います。そのテーマは、「未来を担う阿智村の子ども、育てたい姿と課題」です。諮問の 3 に関わりますが、委員会の中だけでの意見ではなくて、地域の方に大勢参加いただいて、意見交換をしていきたいと思います。

まず、基調講演として 2 人の 副委員長に話をしていただき、その内容をもとにテーマについての意見交換をしてもらえればと思っています。分散会では、5、6 人のグループを組んで、そこへあり方検討委員が 2 人ぐらい入ってもらい、意見を集約したり聞き取ったりしてもらいながら、最後のまとめで、それぞれの分散会で出た意見を共有する流れを考えております。

次回の委員会では、もう少し具体的な内容について委員の皆さんにご意見を出していただければと思います。

(3) 諮問内容についての意見交換

①伏木副委員長

Ａ委員のとても重要な提案をしていただいていて、方向性は 2 つあると思います。1 つは財務省の論理です。もうこの将来の子どもの数は減ってくる。その数に合わせて教員定数だとか予算とかを計算する。学校の位置関係ではどこにどう置くか、 教員をどう配置するかという、かなり事務的なことなので、この議論をするなら半年で、議論も教育の専門家はそれほどいらない。事務局でできてしまう、という全国の市町村があります。だとすると、私や代田委員がここに招かれているのは、 ちょっと待てよということなのだろうと思うのです。

もう 1 つのあり方というのが、これまでの当たり前の教育、 私たちが高度経済成長期から競争原理で当たり前のように受けてきた教育に待ったをかけて、違うビジョンや教育理念でやった場合にどうなるかという別の選択肢がある。その選択肢のヒントがある。

30 万人も不登校がいるなんて異常ですから、フリースクールをどれだけ作っても、NPO がどれだけ学校に行けない子どものケアをしても、本丸である学級が変わらなければダメなのだ、という観点が必要なのです。その場合は、オンラインだとか、それから個別対応だとかがあります。今、中教審では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をと言っていて、次の学習指導要領では、これがキーワードになります。

しかし、そういう私たちが、学校はこういうものだよね、と思っているものにちょっとダウトをかけて、子ども中心の学校のあり方を考えた時に、予算面ではどう投資できるとか、校舎はどうイメージできるのか、という考え

方です。そうなってくると、予算の掛け方も違うと思うのです。でも、その時に 1 番難しいのは 1 億総教育評論家ですから、そこの土台部分を、どういうことが大事になって、何をするのかということはとても重要です。

私は、代田委員が資料提供しましたし、この間、高橋教授の講演もありましたし、そういうものをどれだけ共通の資料として皆さんが共有できるかが大切だと思うのです。だから、6 月末のフォーラムで、グループ毎にこれについて話し合ってください。これがうまくいかないと、 最低限共通の事実を突きつけられ、そして別の選択肢、こういう選択肢もありますか、どうしましょうとかですね。これイメージできなければ なんかの方法、我々使うしかないけど、議論する場に何か資料とか、10 分くらいの動画だと、 何かそういうものを準備しておいて、集まる人たちが阿智村の未来の方向を考える手がかりや共通資料を出してそこで選択をしながら議論することは必要だろうなって思います。

ですから、白澤委員の意見は最もだと思うのですが、私どもは教育の専門家なので、 これまで私たちが受けてきた学校のままだと、阿智村でも不登校は出ると思うし、先生たちは苦しくなるし、そして同じ誕生日の 1 年間の子だけで競争させられる仕組みが変わらないという、 私のように北欧での教育を研究している人間からすると子どもが可哀想な国っていう感じがするのです。もっと自分であることに自信を持てる教育を阿智村がやる。先頭を切って、この村の良さを本当に生かせる、フリースクールなんて何にもいらない、教室でみんなが伸び伸びとできますよという、そんな学校作りに莫大な予算はいらないのです。ただし、地域の人がどんどん入ってくる必要があるので、そんなモデルをみんながイメージできるかが分かれ道なので、そう考えると、教育長が 2 年間という期間を設定しましたけど、私としては、足りないくらいだけれども妥当な線だろうなと思います。

②A委員

おっしゃるとおりだと思うのですが、その具体的なものを考えれば 2 年間なんて全くいらない、半年ぐらいで十分決着つける問題だと思います。その議論をするのなら、多分意味がないのではないかというイメージです。今でも計算できる。学校の統廃合についてこう感じると言ったら、多分、結論を出せるみたいに感じるのです。どんな学校がいいのかを議論し、行く先を知っているのだったら、それは違うところでやった方がいいと思います。

③代田副委員長

この流れを受けて言うと、半年で出すと、結論ができた時に作るのは、20 年前、30 年前の校舎を建てちゃいませんか、ということだと思うのですよ。

ハードの面とソフトの面の両方やっていかないといけないというので、2 年はいい感じで、3 年あるとなかなか議論が進まないと思いますが。もちろん、それぞれ考えがあると思いますが、現実問題、50 年後に 20 人以上の子どもたちが生まれるなんて思っていたら楽天家です。その時をイメージしながらどういう風なことをやるかと言っていたのに。私は、もう 5 校はあり得ないと思うのです。一方で 50 年後、どういう子どもたちに力をつけたらいいのかという議論もしないといけない。今、本当に新しい考え方は、学校と村の施設を一緒に作るというモニュメントだったりします。図書館の中に職員室を置くとか、 全く今までにない発想でまちづくりをしているケースがあるので、そこはソフトの議論で どういう子どもたちが大事という合意形成をしないとさすがに突拍子もない。

フォーラムの話に戻ると、私は合意形成をするときに 1 番のポイントは、子どもたちはどう思っているかということだと思うのです。アンケートを取っていくべきだと思うのです。先週見せたように、部活動改革で子どもたちへのアンケートを取っていない自治体はほとんどない。

皆さんにご提案なのですが、この間、中学生にこの村で育ってどういうところが不安なのか、そして将来どういう力を自分たちにつけていったらいいかというようなアンケートをしたのです。子どもたちは純粋に答えてくれています。

しかし、子どもたちの意見に振り回されるなっていう大人もいるのです。僕はむしろ、そういう本当に純粋な意見を、知らず知らずに大人が削り取って潰しているような現実があると思っています。 だから、中学生たちがどう思っているのかは、私たちが施策や合意形成をするためにはとても大事なものになると思っています。中学生、また昨年卒業した高校生あたりを交えながら、 どうあるべきか話し合うと良いと思います。なんで 50 年か、という、彼らが本当に今度は私たち世代になっているので、本当にあの時にやっていたっていうくらいのスパンでものを考えるっていうところとして、15 歳、16 歳を引き出しながらコラボしてやったらどうかと思います。

④松澤専門主事

伏木委員と代田委員の方から基調講演をいただいて、前回の高橋先生の新たな学びの必要性について触れていただき、これからの主役である子どもたちの考えをアンケートで取るというような話もありますので、それを資料として提供いただき、参加の地域の皆さんはどうお考えかを分散会で議論していただく、という流れでいいですか。

⑤伏木　副委員長

1つ心配なのは、アンケートの前に何かVTRなどを見て答えると、答える子どもたちの声が全く違ってしまうのです。阿智村の子どもたちが日頃どんな教育を受けているかによって子どもたちの声が違ってくることをフロアの人たちみんながまず自覚して、子どもがこう答えているからこうだというようになり過ぎないことです。この子どもたちの声は、現状の阿智村の教育の成果としてこうなる、分析は間違えないようにしていくということですね。

だから、これからの子どもたちにはどんな能力をつけていけばいいのかという意見をいただきたいです。

⑤Ｅ委員

うちにも中学生いますが、今のその教育のやり方で育っている子はうちの子に限ってという話ですが、特に意見がなくって、何か言われれば、それが当たり前だと思ってずっとやっているように思えます。

今の教育じゃなくて、今後の学校、教育、阿智村でどうしたい、と言われても、今までやっていきた学校以外に何かありますか、という考えになってしまうと思います。結局アンケートが来たとして、自分の心で思っていることをうまく表現できなかったりするので、親に喋っていることもあるので、親に意見を聞ければいいんじゃないかと思うのですが、いかがでしょうか。

⑦代田副委員長

今後どうしますかとか後輩のこと聞くわけではなく、もっと友達がいたら授業は楽しくなると思いますか、など分かりやすい言葉で聞きます。子どもたちの今実態をちゃんとみんなで認識しましょうっていうところのアンケートだと思ってください。

⑧教育長

1 回や 2 回の討論や話し合いをしたから物事が直ちに決まるわけではないと思うのです。教育委員会が今期待しているのは、今まで子どもたちや学校の実態について、村の多くの人たちは知らなかったわけです。関心を持ってもらいたいということなのです。そのために伏木委員と代田委員に参加してもらい、そういう情報を元にしてそれぞれの皆さんが発言をする。で、その中に中学生や高校生が入っていいと思うのです。6 月 29 日の話し合いで何かが決まることを教育委員会が期待しているのではなくて、みんながそこで関心を持ってもらって、そこでの話題がさらに村中に広がっていけばいいなということであります。それぞれの分散会でそれぞれの方が色々な思いを語っていただいて、皆さんで色々な考えがあるということを確認できればいいと

思っております。

⑨伏木　副委員長

現実問題として、5 年後とか 10 年後に小学校 1 年生に上がる子どもの予測数はこうなるというような、その危機感のあるデータは出てこないのですか。29 日、今もうすでに 5 年後は 26 人ですが、6 年後が 19 人であるというデータは全部示して、もう一度そこの場で確認するなら、データ自体はありますが、夢を語ることも大事なのです。自分たちの村がどうなっているのかを考えるためには手がかりはあった方がいいかと思います。

⑩教育長

時間的に 2 時間なので、資料として置いておくことができるのと、代田委員がその基調講演で触れてもらうことはできますよね。わざわざ松澤専門主事が 10 分、20 分かけてやるのは、第 1 回でもやっていますので、むしろなくていいと思っています。

⑪Ｃ委員

今の件ですが、その質問はいろんな要素が入ってきて、統廃合について考えていくのか、 教育の中身を変えていくことについて考えているのか。学校を建てるけど、どんな学校なのか、代田委員がおっしゃったみたいに、地域の中に学校が入るみたいなのになって、その焦点がどこなのか。児童数の減少については書いてあるのですが、学校の数をどうするかなどは一切なく、どこに焦点を当てて何を考えていいのか、なかなか分からないから。

例えば、ちょっと統廃合については置いておいて、こんな学校があったらいいなっていう夢をみんなに出していただいて、そんな学校を作ろうという話し合いはできるけれど、どこに作るのかについて言いたくて集まる方もいる中で、焦点が合わなくなってきちゃう気がして怖いと思います。

まず 1 つ、なんでこんな学校だったらいいのか夢の学校について語り合うのはどうか。また、子どもの夢はこんな感じですっていうようなのはどうなのですかね。

⑪教育長

松澤専門主事が言っていたように、1 年目はどのような教育を、どのような子どもたちを育てたいのかについて 基本的に話し合っていただく。ただ、その時に頭の中には子どもの数がどんどん減ってきていて、状況が厳しいということは当然あるのですが、それをダイレクトに扱うのではなく、村としてどんな子どもたちにどんな教育を提供していったら良いのかについて 1 年目

は中間まとめを出していただくと。次に、こういう教育をするにはどういう学校があったらいいのかという2段階で協議することは言ってあります。6月に最初から統廃合の話をするのでは話し合いが不毛になってしまうと思います。

今は伏木委員と代田委員が基調講演で話されることを踏まえて、それをベースにして、話し合ってもらえればいいのではないかと思います。

⑫代田 副委員長

改めて4ページ目の諮問内容をご覧いただきたいと思います。

皆さんから教育長に何人も質問されたのは、まさにご指摘あったように、この背景には当然統廃合の問題があるという意識でいいと思うのです。そうしないと、ただ空中戦になってしまうだけだと思います。

その上で、1番目には、今の時代を見据えた学校と地域との関係性については、学校だけで考えていく時代ではないので、 どういう風なまちづくりや設計をしていくかということも大事な議論だと思っています。

2番目は学校制度で、この学校制度も随分今変わってきています。特に、今年度、 フリースクールで学校以外の登校も認められるような大きな流れもあるので、そういうことも含めて学校の制度も考えていきたいと思います。

3 番目に、これからの子どもたちを育むべき施設や能力についてということでの質問が来ています。

今回のフォーラムは、この 3 つ目の諮問に対する答申をみんなで考えるということだと私は理解しています。ですから、背景もあるし、逆に、この学校と地域との関係性について聞かれても全くわからないけれども、これからの子どもたち自身が、例えばこういう能力がなければダメだな、子どもたちだってニュースを見てどういう力が必要だということについて、本当に直感的に分かっている子が多いなと思っています。3 番目の議題を話し合うということで共通認識が図れればいいので、逆に、もう少しこちらに近い考えのような表現でもいいのかなと思っています。

要は、育てたい姿と課題というよりは、答申の内容をみんなで考えるぐらいの表現でいかないといけないと思っているので、こういう内容が教育長の方から諮問されて、私たちが中心となって回答していくということで再認識し、その3番目が6月下旬のフォーラムだということでご理解いただければと思っています。

1番のところは、随分時間がかかる地域との関係性についてなんですが、この間、ちょっと分かりやすい事例がないかなと話す中で、村が商工管理者のメタバースを作っているのをご覧になったことありますかね。例えば、そこに子どもたちが登校するなんていう居場所があるということも可能性として

はあるのですよ、という今までの発想にはなかったのですが、仮想空間の中で地域の人たちがやっているところに子どもたちが来るという可能性はあるのではないかと思っています。松澤専門主事の方から、村商工会のホームページでメタバースの空間が出てきます。

⑫松澤専門主事

私がアバターとなってこの空間の中に入って、お店に訪れることもできるのです。不登校のお子さんがこれに興味があれば、この仮想空間の中でコミュニケーションを取ることができます。広場みたいなところに人がいれば、その人と話をすることもできるのです。また、例えば先生がいれば、 その中で先生がコミュニケーションを取りながら、この空間の中で勉強を教えてもらうこともできるかもしれない。他のクラスの友達がこっそり社会見学のようにアバターで入ってくれれば、この空間の中で色々な人とこの空間の中でコミュニケーションをとることも可能になるだろうということです。

⑬代田 副委員長

要は、学校だけじゃなくて、地域の皆さんが子育て、教育をするという概念があって、いろいろな可能性があると思っています。

Ａ委員は本当にこの飯田のキラ星スターだと思っています。Ａ委員のやっておられることは、全国の子どもたちのためには素晴らしいことなのだけれど、地元の子どもたちのための学びになることを、この飯田下伊那にも広げてほしいという話をしています。せっかくのこの観光資源を学びにつなげるというところを村全体で考え直してみた時に、観光にかける教育という視点で考えると、全く新しいものもができるのではないかと思っているのです。

⑭Ａ委員

落ち着いて取り組めるような状況を作りたいと思っていますので、今回、提案をいただいたものに関しても実現できるように一生懸命頑張りたいと思います。私は、育ちがあまり良くないのですが、そういう人間がこの地域に誇りを持てるはずがないと思うのですが、私は、ここに戻ってきて、その地域の人たちに聞いても、「この村には何にもないし、未来も何にもない」っていう人たちが圧倒的に多かった。それでも希望が見えるようにと思って、地域資源とは何かと考えた時に、もちろん温泉や星があるというところに至り、次の可能性を賭けたわけなのです。

今、地域の皆さんがどう思っているか分かりませんが、 少なくとも外部の人たちは、この環境があるのは素晴らしい村だってみんな思ってくれているわけです。そこら辺を今度は子どもたちも含めていろんな人たちに話をして

いければいいなと思います。それから、教育長が以前、校長時代に頼まれた高校の学校の講師をやらせていただいたのです。今月の 30 日にもやるのですが、本当に生徒は誰も地域に誇りを持ってなかったのです。それを中学校とか小学校だとか高校に通じて観光が持てる力を、地域に持てる力っていうのを、1 時間とか 2 時間ぐらいの講義で話しているのですが、興味を持ってくれる人が増えたことは間違いないと思います。

⑮代田　副委員長

私は、どれだけこの地域と連携をしていくかという考え方が新しさだと考えて、学校は学校で考えるのではなくて、そういう地域の人たちの、もしくは企業、本当ここで製造していきたいという必死でやっている皆さんと、連携する関係性をどう築くかがとても大事だなと思いました。

そういうことも含めて 1 番目(の諮問内容)はどうあるべきか、ということを考えるのが 1 番だと思って、2 番目 3 番目は、先ほど言ったようにみんなで考えて、子どもたちを中心に考えて。2 番目のところは、伏木委員の専門ですけども、 学校のスタイルとか生徒がどんどん変わってきているので、みんな勉強しながら、どういう制度がいいのか考えていく。

それで、事務局に提案しているのですが、視察旅行、海外のスウェーデンへ視察に行くのは難しいですよね。でも、それはオンラインでもできる。

日本で先進的な教育理念、目標、制度をみんなで勉強していく。これが核心なので、私の方から、私なりの解釈を皆さんにお話ししました。

⑮伏木 副委員長

代田委員の話に関係して、私は別の自治体のアドバイザーをしていまして、学校と教育委員会だけで考えるのはやめましょうとお話しています。学校と社会教育施設、保育園や老人施設と一体化して、村のいろんな機能を総合的に考えていくという枠組みにしないといけないと思います。

言葉としては、このエリアに来ると地域の人たち同士が友達になったり知り合いになったりできる。学校は、地域の人にとって一般的にはハードルが高いのです。地域の人って子どもが人質に取られているから来るけれど、敷居が高いのですね。地域の人を呼ぶ時には人材バンクとか言って、得意な芸がある人とか技がある人しかエントリーできないようなところがある。そんなことはやめて、家庭科の授業があったら、おばあちゃんの味噌汁作るのを手伝いに来るとか、技術家庭で鉋をかけるとか、等身大で学校がいろんなことで来やすいような場所にしながら、地域の人同士がそこで会話ができるようなものを、将来的に考えていかなければいけないと思っています。

そう考えている私たちからすると、代田委員の話は全く同感で、そこに企業が入るのは当然で、企業だってこの地域で生きていくために必要なので、その企業の社会貢献というものが教育や福祉とも繋がっていく良いモデルなのではないかと思っています。

教育長さんには、私としては、本来はこういう会議、20 人プラス全く別の関係者もいると面白いのですが、それでは解決にならないので、6 月 29 日のフォーラムには、そういう、ちょっと場違いだと感じているような人たちが自由に参加できる、そういう雰囲気があるといいと思っています。

私からは、近年の一般の大人が考えている学校のイメージを払拭するような話題と未来に向けて今文科省は何を考えているのかとか、地域の大人がびっくりするようなモデルを話題にしながら、スウェーデンやフィンランドには簡単に行けませんが、そういう国ではどんな感じでやっているのかという話題を少し入れたらいいかと今思いました。そして、代田委員の方は、企業と連動、連結するステークホルダーを広げていくような話を部活動も含めて話してくれると、我々の話題提供の役目を果たせるかなという気がしました。時間が短いのでそれを話すことはできないのですが、2 つの資料が貼ってありますので、うちへ帰ってアクセスしていただければ同じように読めます。

⑯委員長

よろしいですかね。今日は、思いもよらない方向からのお話が出てきています。

⑰伏木副委員長

さっき、メタバースが出てきましたが、私が思うのは、不登校の子だけのメタバースじゃなくて、例えば、足を悪くしちゃって外出できないおじいちゃんが、メタバースを使って寄り合いに参加できたりとか、商店街に入ってショッピングしたりとか、これ今の技術でできることなのです。そのお年寄りも元気になって、みんなが学校の周辺で色々繋がっちゃう、そういうのもいいかなと思います。それから、中学生たちが、ヘブンス園原で星空を見るイベントがありますよね。こういうのを、例えばメタバースで、日本中、世界中から参加する仕組みがあるとするじゃないですか。そこにチューターというか説明役に阿智の中学生が、地元にいる中学生として案内をする。僕は見たんだ、みたいなことを言うことに参画するとかもいいと思います。住民が、そのメタバースもそうだけど、学校を確認したいろいろな仕組みを作っていくことで、子どもが社会とダイレクトに繋がっていく仕組みっていうのを作ることによって、同級生だけで 9 年間暮らすっていうのはもうやめてもらって、常に 縦割りだとか、地域の人と子どもが繋がるという、そういう学びを

村はどこよりも進んでやっているんだっていう、小規模校を強みに変えていくという、そういうビジョンが 29 日の議論に出てくるといいと思います。

(4) 第２回委員会への報告と話題提供について
・Ａ委員にお願いする。

(5) 協議のまとめ　(伏木副委員長)
第１回小委員会でどのように議論が進んだかを確認させていただきます。
①協議１の自己紹介で皆さんの思っておられることをみんなで聞き合いながら進めました。
②協議２の阿智村の教育を考える全村フォーラム（6 月 29 日）について
協議の結果、基本路線としては伏木と代田委員の方から話題提供を行い、フォーラムの中で議論しやすい、ためになるような、共通の土俵に乗れるような話題提供を行います。時間は最大 30 分
その後、6～8 人のグループに分かれて分散会を行います。各グループに小委員会の方が 2 人ぐらいずつ入ってもらい話を進め、まとめてもらいます。最後のまとめの時に、自分の分散会では こんな意見や考えが出されて話し合われました、というまとめをしていただき、全体で共有したいと思います。例えば、模造紙を広げて意見を書いてもらうのがいいと思います。小委員にはちょっと見てわかるようにまとめていただきたいと思います。
全員が 15 分ぐらいの間で見て回って、そこのグループの誰か、担当の委員でいいと思いますが、 聞かれたら答える人がいるぐらいにしてやってもいいかもしれません。
資料として、教育委員会側から子どもの数の減少に関わるような基礎資料と代田委員の方が間に合えば子どもに取るアンケートが置かれているという感じですね。
フォーラムについてはいろんなご意見が出ましたが、基本的には諮問の中の 3 番目にある、「これからの子どもたちに育むべき資質や能力について」に関わる議論にしたいと思います。イメージとしては、校長さんからこんな学校があったらいいということを話し合うのが良いのではないかというご意見がありました。ただし、統廃合の問題には焦点を当てないというご意見だったかと思います。
③学校外の方との連携について
学校という組織だけでなく、企業を含めて外部の方と一緒に連携していくというイメージみたいなものについて意見交換がなされました。
④第 2 回委員会への報告について
Ａ委員が委員長からのお願いを承諾していただいたということで、第 2 回

委員会へ報告していただくということになりました。もし、追加があるとしたら、事務局にお任せするということです。

5　連絡　(松澤専門主事)

(0) テトルへの登録について

(1) 第２回委員会　　６月４日(火)16:00～18:00　コミュニティー館２階ホール

(2) 第２回小委員会　７月１２日(金)　　16:00～18:00 阿智村中央公民館会議室

(3) ５月１８日(土)　リモート講演会

(4)　その他

①教育長

あり方検討委員会の皆さんには､6 月 29 日はご出席いただくということで、もちろんご都合がつかない方はいたしかたないということでお願いします。あと、村内の校長先生や村会議員の方にもお願いしてあります。結構、出席してくれるのではないかと思っております。

②Ｄ委員

中学生や高校生への参加の呼びかけについてはどうでしょうか。

③教育長

それぞれに中学校経由でお願いをしていきたいと思っています。高校生については、今の高 1 生ぐらいのところで個別にも声をかけていこうと思っています。

④Ｄ委員

やはり、個人参加する方は課題意識を持って参加すると思うのです。そこで出た意見は、取り入れなければいけないと思うのですが、声を出せない人たちの意見もくみ上げないといけないとも思うのです。アンケートみたいな形で、参加しない方の意見を汲み上げることも考えていきたいと思います。

実際、学校で指導されている教員の皆さんの経験は聞いてみたいです。

全村フォーラムのチラシのテーマを作り変えられてることができるとしたら、もう少し分かりやすい表現にしたらどうか、フォーラムの趣旨の考えに共感してもらいたいって気持ちになります。

これから目指すべき学校が、今、学校に行きにくい、教室に入りにくい子どもたちを、その目線から考えるといいと思います。そうすると、多くの方にとってとても行きやすい学校になると思います。

学校では、そのような生徒が来ているか来ていないかということをクラスの生徒に言わないで、クラスでもそういう生徒に何にもしていない、という

話を聞きます。参加する人たちの範囲を広げるべきかもう一度考えていただいて、これから出すチラシに活かしていただけたらと思います。

⑤松澤専門主事

広報あち 6 月号にも案内を入れ、ＱＲコードから申し込みができるようになっています。ご案内を出すのは先ほどのメンバーですが、どなたでも、もちろん参加いただけると思います。ポスターも今、用意しています。

委員の皆さんからも案内してもらって、ぜひ多くの方が参加できるようにお願いします。

⑥Ｅ委員

(質問)高橋先生の録画視聴は、委員以外でも住民の方が見られるのですか。

(回答)QR コードも貼ってあるので可能です。

(質問)第 1 回あり方検討委員会の録画ですが、自己紹介や発言まで、すべてはじめからケーブル・テレビの放送に入っていたのですが、これからも同じようにするのですか。

(回答)前回お話しましたが、第 1 回はケーブル・テレビで全部流しましたが、今後は基本的にはしません。

(質問)あのように放映されると発言できないと思ったので、もう大丈夫ということですか。

(回答)6 月 29 日のフォーラムは、伏木委員や代田委員のお話を出しますが、分散会などは、いわゆる様子を流すだけで、誰が何を言っているか、というよう話の中身までは流しません。

(質問)非公開の会議にはできませんか。また、会議録は住民が見る時にどの委員が何を言ったか分かる書き方をされますか。

(回答)会議録について

伏木委員は、大学教授という責任ある立場なので名前は出します。村民の知る権利もあるので、原則的には載せるということでいかがでしょうか。

(意見)委員会の時に、その点を委員の皆さんにちゃんと言っておかないと、私はちょっと言いづらいと思ったので、次の会でもう 1 回確認していただけたらありがたいです。

(回答)傍聴については、前回ガイドラインでお示ししたように原則として可能、ということになっています。ただ、委員長が皆さんに図って決めれば秘密会にすることができますので、好ましくないと判断された時には、適宜決めていただければと思います。

12　閉会

○松澤専門主事

会議録等のことについては、次回、確認をさせていただくということでお願いします。

それでは、以上で第１回あり方小委員会を終わりにします。ありがとうございました。

（閉会　午後６時１分）

教育長・委員長　署名／捺印